

島根県東部地域における地盤構造

Subsurface structures of Eastern Shimane area, Japan

足立 正夫 [1]; 野口 竜也 [2]; 室井 悠児 [3]; 小村 紘平 [3]; 西田 良平 [4]

Masao Adachi[1]; Tatsuya Noguchi[2]; Yuji Muroi[3]; Kouhei Omura[3]; Ryohei Nishida[4]

[1] 米子工高; [2] 鳥取大・工・土木; [3] 鳥大・工・土木; [4] 鳥取大・工・土木

[1] Yonago Tech. High School; [2] Civil Eng., Tottori Univ; [3] Civil Eng., Tottori Univ.; [4] Civil Engi, Tottori Univ

島根県東部地域に出雲平野と松江平野があり、ともに沖積平野上に発達した地方都市である。両平野において常時微動短点観測と微動アレイ観測を実施し、H/V特性とS波速度構造を推定した。また、既存の重力データと、新たな重力観測を27箇所で行ったものを用いて、重力異常から地盤構造を推定した。微動のH/Vの特徴は、出雲平野では東西方向に周期1秒以上の帯がある、松江平野では平野の中央を流れる大橋川沿いに周期の長い領域が集中している。微動アレイ観測から、第四紀層とその下の岩盤の境界は $V_s=600\text{m/s}$ 程度で分けられる、地震基盤について出雲平野では西が深く東に向けて浅くなっていることがわかった。重力異常から、島根半島から平野にかけてブーゲー異常が急激に落ち込んでいる、密度差 0.4g/cm^3 の2層モデルを仮定した断面解析においてその基盤深度は、松江で670m出雲は最深部で1100mになることがわかった。